

## 「韓国語研修（アジア研究）参加報告書」

京都大学文学部 言語学専修 3回生 前橋優子

## ○プログラム内容

ソウル大学言語教育院での3週間の韓国語学習プログラムに加え、韓国社会や国際関係に関する特別講義の受講とソウル大学日本学科の学生との交流会を行った。

## ○学習成果

ハングルも十分に読めないところからのスタートだったが、学習内容が会話中心で実用的なものだったので、毎日習ったことがすぐに生活で使えるようになり、日々成長を実感できた。授業の進度が速く毎日の復習が大変だったが、韓国語は学び始めてみると日本語に近く、助詞の扱いなど日本人には感覚的にわかりやすい言語だった。しかし、今回これを英語で学んだというところが私にとってとても意義のあるものだったように思う。勉強を進める中で、外国語学習は媒体として用いる言語の体系の中での解釈が大きく影響するものであることが分かったからである。日本語で学ぶ場合と比べて、韓国語を英語で学ぶことの不便な点、理解しやすい点を発見しながら学習できたことが非常に面白かった。そこから、英語話者が日本語を学ぶ困難やそれを克服するプロセスに興味をわき、外国人の日本語学習について詳しく知りたいと思った。

## ○海外での経験

韓国の学生とかかわる機会は少なかったが、ソウル大の日本学科の学生との交流会はとても刺激的で面白かった。ソウル大の学生の日本語の流暢さと文化についての関心の高さにまず驚き、積極的に話しかけてくれることに嬉しさも感じた。同時に、自分が持っている韓国についての知識が少ないことを残念に思い、もっと韓国の文化と韓国語を学びたいというモチベーションにもつながった。韓国の学生との交流や現地での生活を通して、韓国と日本は似ているようでその価値観に異なる点の多い国であることも感じた。特に男女関係や結婚への積極性に関しては、最近の日本の消極的な傾向を無視しても韓国のほうがはるかに強いという印象をうけた。滞在中に知った韓国の姿を通して、今まで当たり前だと思っていた日本独自の価値観に改めて気づくことができた。

## ○今後の学習・進路について

今回の韓国語研修は自分の学習の興味の幅を広げる機会になったと感じている。海外留学については今後するかどうかはわからないが、機会があれば短期の語学研修などにまた参加したいと考えている。来春から就職活動を行う予定だが、その際には海外とかかわりのある仕事を選びたいと考えている。あるいは、世界と渡り合える人材育成に携わる仕事に就きたいとも思う。いずれにせよ、今回の研修中の特別講義を通じて、アジアの国々との国際関係を良好に保つことを念頭に置くことが重要であると感じた。今までの知識が浅かったので、正しい理解のためにもアジア諸国と日本との国際関係について在学中にもう少し深く学んでいきたいと思っている。